

(2007年11月号)

## 目 次

### 繊維情報

・2007年9月の繊維品輸出概況(繊維品全体・原料・織編物・主要二次製品) .....	1
・2007年8月の繊維品輸入概況(繊維製品計・糸類・織物類・衣類) .....	13
・アジア 中国 2007年1-9月の繊維品貿易概況 .....	15
香 港 2007年1-9月の繊維品貿易概況 .....	19
韓 国 2007年1-9月の繊維品貿易概況 .....	22
・米 州 米 国 2007年9月の繊維品輸入 ~ 好調続く中国、ベトナムからの輸入 ~ .....	25

### 組合関係の会議と催事

・(2007年10月) .....	27
-------------------	----

### 組合業務報告

・中国アジア製品委員会「中国東北部調査団」を派遣(輸入) .....	29
------------------------------------	----

### お知らせ

・繊維品の包括保険の「保険責任期間終了」と「保険期間延長手続き」について(輸出) .....	31
・「イラン」向け、引受方針変更について(輸出) .....	32
・イラン向けバイヤーの引き受け制限(輸出) .....	33
・「ペナン」向け他1カ国の保険引受方針変更について(輸出) .....	34
・12月の輸入通関手続相談窓口開設日(輸入) .....	35



## 2007年9月の繊維品輸出概況

### 1. 繊維品輸出概況

- 前年同月比 1%減の 6 億 5,556 万ドルと微減 -

2007年9月の繊維品輸出は、ドルベースで、前年同月比 1%減(前年1-9月比:3%増)の 6 億 5,556 万ドルと、ここ 2 ヶ月の微増推移から微減に転じた。

また、為替が 2006年9月の 117.01 円に対し、2007年9月は 115.02 円と昨年同月に比べ約 2%弱の円高となったことから、円ベースでは 3%減(同 6%増)の 754 億 200 万円と今年に入って初めて月間で減少推移となった。

#### < 主要地域・国別輸出 >

9月の輸出を主要地域別に見ると、全輸出の 73%を占め、わが国の輸出動向を左右する最大市場の東アジア向けが 6%減と後退し、全体の輸出減少の最大要因となった。一方、西アジア、欧米の純輸出市場は、引き続き好調を維持し、西アジアは 25%増、北米 4%増、欧州 13%増と各々増勢で推移した。

東アジアの主要国向けでは、ベトナム、シンガポール、マレーシア、フィリピン、インドネシアが揃って増勢推移となったが、最大市場の中国、また、香港、韓国、タイ、台湾が減少し、前年同月比 6%減(同 1%減)の 4 億 5,517 万ドルと大きく後退した。

特に、中国は、4 ヶ月連続で減少しており、先行きの輸出にとって、最大の不安材料となっている。

シェア 5%の西アジアは、サウジアラビア、アラブ首長国、イランが伸び、全体として 25%増(同 18%増)の 3,743 万ドルと大幅な増加となった。

欧米市場は、シェア 10%の EU は、原料類(綿・糸)、織物類等が好調に推移し、12%増(同 18%増)の 7,337 万ドルと先月に続き 2 桁の増加となった。一方、シェア 8%の米国は、織物類、糸類は不振推移となったが、綿類、不織布が好調に推移し 5%増(同 8%増)の 5,489 万ドルとなった。

#### < 主要品目別輸出 >

これを主要商品別にみると、まず綿類の輸出は、全体として、数量で 1%減(同 1%増)と微減となったが、単価のアップにより、金額では 15%増(同 14%増)と 2 桁の増加となった。

太宗の合繊綿は、数量で 6%減(同 2%減)、金額で 12%増(同 12%増)と数量減の金額増となった。

主力のアクリル綿は、量的には、イラン、米国、EU は大幅増となったが、最大輸出国の中国、インドネシアが減少し、数量で 9%減(同 3%減)となった。但し、単価の上昇より、金額では 9%増(同 10%増)となった。

一方、ポリエステル綿は、EU は健闘したが、タイ、マレーシア、中国、米国が後退し、数量で 10%減(同 4%減)となった。但し、単価はアクリル綿と同様に上昇し、金額では 1%増(同 7%増)となった。

その他の合繊綿では、ピニロン綿は、主力の欧州が大幅に伸び、数量で36%増(同19%増)、金額で57%増(同21%増)となった。

スフ綿は、82%を占めるトウがベトナム、フィリピン、南アフリカを中心に、また、詰め綿用中心のビスコース綿が米国を中心に共に好調に推移し、数量で18%増(同21%増)、金額で27%増(同24%増)となった。

**糸類**の輸出は、数量で3%減(同3%減)、金額で3%増(同3%増)と数量減の金額増となった。

主力の合繊長繊維糸は、数量で4%減(同3%減)、金額で5%増(同5%増)となった。

その内訳は、ポリエステル長繊維糸は、中国、香港、トルコが健闘したが、台湾、米国、EUが大幅に減少し、数量で11%減(同9%減)、金額でも11%減(同6%減)となった。一方、ナイロン長繊維糸は、中国、フィリピンが減少したが、タイ、米国、EUが好調に推移し、数量で3%増(同2%増)、金額で9%増(同7%増)と好調に推移した。

その他の合繊長繊維糸では、アクリル長繊維糸は、米国は健闘したが、主力のEUが大幅に後退し、数量で38%減(同26%減)、金額で21%減(同9%減)となった。

また、人絹糸は中国が健闘したが、最大国の韓国、EUが減少し、数量で6%減(同1%減)、金額で5%減(同6%増)となった。

太宗の**織物類**の輸出は、数量で12%減(同5%減)、金額で10%減(同3%減)と数量、金額共に不振推移となった。

織物の内訳では、中心品目の**ポリエステル長繊維織物**は、数量で20%減(同8%減)、金額で15%減(同4%減)と、数量、金額共に大幅な減少推移となった。

地域的には、全体の73%を占める東アジア向けは、最大国の中国を初め、香港、ベトナム、韓国、タイ、台湾、シンガポール、スリランカ、フィリピンが軒並み減少し、東アジア全体としては23%減(同8%減)と大幅な減少となった。

また、純輸出市場向けは、西アジアは、アラブ首長国、サウジアラビアが共に不振で、西アジア全体として16%減(同13%減)となった。

一方、欧米市場向けは、米国が37%減(同15%減)と大幅に減少したが、EUは6%増(同6%減)と健闘し、明暗を分けた。

**ナイロン織物**は、数量で15%減(同5%減)、金額で3%減(同2%増)となった。

シェア84%の東アジア向けは、ベトナム、タイが好調に推移したが、最大市場の中国、香港、韓国が減少し、全体として9%減(同6%減)となった。一方、欧米市場は、シェア6%の米国が60%減(同8%減)と激減し、シェア5%のEUも26%減(同73%増)と減少に転じた。

**綿織物**は、数量で9%減(同9%減)、金額で10%減(同8%減)と数量、金額共にこのところ後退推移が続いている。

80%のシェアを占める東アジア向けは、ベトナム、マレーシアが好調に推移したが、最大市場の中国、香港、タイ、韓国、台湾が減少推移となり、東アジア全体として12%減(同11%減)となった。一方、欧米市場は、シェア12%の米国が6%増(同3%増)、シェア2%のEUが12%増(同2%増)と共に好調に推移した。

**ポリエステル短繊維織物**は、数量で2%増(同2%増)、金額で6%増(同4%増)と堅調な推移となった。

全体の56%を占める東アジア向けは、ベトナムが増加したが、最大市場の中国、香港が減少し、東アジア全体として15%減（同6%減）となった。一方、シェア43%の民族衣装用の西アジアは、日本品への信頼が厚く、アラブ首長国、サウジアラビアが揃って好調に推移し、西アジア全体として33%増（同15%増）と引き続き好調な推移となった。

**人絹織物**は、数量で15%減（同4%増）、金額で13%減（同2%減）と数量、金額共に2桁の減少となった。

シェア73%の東アジアは、中国、韓国が増加したが、最大市場の香港、台湾が大幅に減少し、東アジア全体として15%減（同4%増）となった。また、シェア14%の西アジアは、サウジアラビアは増加したが、アラブ首長国が減少し、全体として18%減（同3%増）となった。一方、欧米市場も揃って不振で、米国は27%減（同11%増）、EUも13%減（同3%増）となった。

**毛織物**は、数量で25%減（同7%減）、金額で23%減（同9%減）と、数量、金額共に大幅な減少推移となった。

地域的には、東アジアが96%とほぼ全量を占めている。ベトナムは健闘したが、最大市場の中国、香港が減少し、東アジア全体として25%減（同8%減）となった。

**不織布**の輸出は、数量で16%増（同19%増）、金額で6%増（同12%増）と数量、金額共に好調な推移が続いている。

全体の57%を占める東アジアは、香港が微減となったが、最大市場の中国を始め、韓国、タイ、ベトナムが増加し、全体として19%増（同25%増）となった。

また、欧米市場は、シェア34%の米国は20%増（同13%増）と好調を維持、一方、シェア6%のEUは7%減（同21%増）と対照的な推移となった。

**コートッド織物**の輸出は、数量で16%増（同14%増）、金額で9%増（同12%増）と数量、金額共に好調に推移した。

全体の81%を占める東アジアは、中国、香港、ベトナム、タイが揃って増加し、全体として16%増（同12%増）となった。

一方、欧米市場は、シェア6%の米国は71%増（同52%増）と大幅に伸び、シェア5%のEUも4%増（同2%増）と堅調な推移となった。

**ニット生地**の輸出は、数量で2%減（同2%増）、金額で3%減（同3%増）と数量、金額共に微減推移となった。

全体の約9割強を占める東アジア向けは、主要国では、ベトナム、台湾が好調に推移、一方、最大市場の中国、香港、韓国、タイ、インドネシアは不振推移となった。

また、欧米市場向けは、米国は後退したが、EUは前月に続き大幅な増加となった。

繊維品輸出実績（2007年9月）

単位	2007年9月						2007年1月～9月						2006年実績		
	数量	金額		数量	金額		数量	金額		数量	金額		数量	金額	
		ドル	千ドル		ドル	千ドル		ドル	千ドル		ドル	千ドル		ドル	千ドル
繊維品総合計	34,007	75,402	655,559	99	315,111	730,654	6,122,932	106	103	406,322	942,373	8,102,550			
原料(綿)合計	6,515	11,834	102,888	99	115	104,267	874,427	101	114	406,322	118,992	1,022,832			
スフ綿	25,009	2,793	24,282	118	127	23,937	200,776	121	124	62,898	25,833	222,022			
合繊綿	3,680	8,815	76,635	94	112	78,430	657,713	98	115	313,244	90,882	781,236			
(ポリエステル)	18,675	768	6,679	90	101	7,191	60,314	96	111	46,753	8,787	75,520			
(アクリル)	11,208	6,302	54,788	91	109	56,274	471,895	97	114	238,023	65,808	565,715			
糸 合計	1,044	9,015	78,377	97	103	81,163	680,789	97	106	132,706	103,131	886,798			
人絹糸	40	907	7,885	94	95	8,378	70,262	99	110	12,210	10,436	89,752			
スフ糸	9,346	46	397	518	424	393	3,302	118	142	301	405	3,486			
合繊長糸	2,076	7,233	62,886	96	105	63,986	536,835	97	108	109,458	80,070	688,416			
(ナイロン)	3,069	1,621	14,095	103	109	14,924	125,221	102	110	23,766	18,058	155,289			
(ポリエステル)	231	1,497	13,014	89	89	13,443	112,780	91	97	38,017	18,443	158,578			
合繊短糸	428	204	1,772	99	82	2,288	19,169	75	84	3,783	3,448	29,676			
綿糸	80,762	235	2,046	164	105	2,617	21,903	108	100	5,070	3,918	33,663			
織物合計	563	875	7,607	98	92	8,816	73,905	91	92	7,586	12,682	109,036			
絹織物	6,132	1,930	16,776	85	87	56,709	163,238	104	101	74,363	26,439	227,232			
人絹織物	796	312	2,714	152	148	6,919	26,409	100	106	9,863	4,484	38,529			
スフ織物	38,590	8,853	76,968	84	92	403,785	809,286	94	104	582,325	127,729	1,098,929			
合繊長織物	5,177	1,233	10,716	85	97	51,156	120,780	95	106	72,490	15,668	134,852			
(ナイロン)	28,358	5,996	52,127	80	85	302,340	568,287	92	100	447,346	93,225	802,228			
(ポリエステル)	12,370	3,012	26,191	100	106	132,239	270,954	103	109	177,576	41,653	358,097			
合繊短織物	17,735	6,271	54,523	91	90	205,923	75,434	91	95	315,628	112,854	969,680			
絹織物	4,508	3,671	31,920	75	77	33,462	25,979	93	94	49,590	37,503	322,469			
毛織物	60,599	5,964	51,849	116	106	53,035	444,769	119	115	609,944	62,968	541,547			
不織布	2,166	329	2,859	129	121	2,523	21,176	120	121	17,335	2,872	24,684			
タイヤコード織物	1,607	3,809	33,112	116	109	15,267	39,448	114	115	18,074	46,353	398,997			
コートテッド織物		5,316	46,219		97	56,512	472,989		106	103	73,497	631,885			
ニット生地		3,808	33,108		95	32,275	271,008		105	102	40,656	349,292			
アパレル		10,355	90,027		96	97,746	819,341		104	101	127,392	1,095,334			
その他															

(注) 1. 繊維品総合計は、HS関税分類11部の合計。  
 2. 原料(綿)、糸、織物合計は分類番号50類から55類までのそれぞれの合計。  
 3. アパレルは61類(ニット製衣類)と62類(布帛製衣類)を合算したもの。  
 4. その他は、63類及び65類～59類の一部商品。

アパレルの輸出は、金額で5%減（同2%増）と減少推移となった。

内容的には、布帛製衣類では、外衣類は、韓国、香港は減少したが、最大国の米国、台湾、中国、EUが増加推移となり、金額で16%増（同9%増）となった。一方、下着類は、中国は増加したが、最大国の台湾を始め、香港、韓国、米国、EUが減少し、金額で29%減（同1%増）となった。

ニット製衣類では、外衣類は、香港、中国が増加したが、台湾、韓国、EUが減少し、金額で7%減（同横ばい）となった。一方、下着類は、韓国、中国が増加したが、台湾、香港が大幅に減少し、金額で15%減（同横ばい）となった。

その他二次製品は、敷物類は大幅増となったが、細幅織物・紐類、漁網類等が不振推移となり、金額で10%減（同4%減）となった。

## 原料(綿・糸)の輸出

単位：トン、千ドル、セント、%

	2007年9月				2007年1～9月			
	数量	前年 同月比	金額	単価	数量	前年 同期比	金額	単価
スフ綿	6,515	118	24,284	373	55,162	121	200,776	364
合繊綿	25,009	94	76,635	306	237,307	98	657,713	277
ポリエステル	3,680	90	6,679	181	34,119	96	60,314	177
アクリル	18,675	91	54,788	293	178,985	97	471,895	264
他合繊綿	2,654	120	15,168	572	24,203	111	125,504	519
人絹糸	1,044	94	7,885	755	8,955	99	70,262	785
合繊長糸	9,346	96	62,886	673	80,998	97	536,835	663
ナイロン	2,076	103	14,095	679	18,542	102	125,221	675
ポリエステル	3,069	89	13,014	424	26,809	91	112,780	421
他合長糸	4,201	98	35,777	852	35,647	100	298,834	838
綿糸	428	164	2,046	478	3,775	108	21,903	580

出所：財務省統計

## <綿輸出>

合繊綿、スフ綿などの綿合計の輸出は、主力のアクリル綿、ポリエステル綿は何れも数量減となったが、単価の上昇から金額では増加推移となった。また、スフ綿は数量、金額共に増勢を維持し、綿全体では、数量で1%減の3万4,007トンと微減となったが、金額では、15%増の1億289万ドルと2桁の増加となった。

輸出依存度の非常に高いアクリル綿は、数量で9%減の1万8,675トン、金額で9%増の5,479万ドルと数量減の金額増となった。

数量ベースで全体の72%を占める東アジア向けは、最大輸出先の中国が36%減と大幅に減少したのを

始め、香港29%減、韓国52%減、インドネシア6%減と軒並み後退し、東アジア全体では34%減の1万トンとなった。一方、他市場は揃って好調に推移し、西アジアは、イランの大幅増加により61%増の4,337トン、アフリカはナイジェリア、ケニアの好調により104%増の1,940トン、米国は36%増の1,331トン、EUは34%増の811トンとなった。

**ポリエステル綿**は、数量で10%減の3,680トン、金額で1%増の668万ドルとアクリル綿と同様に、数量減の金額増となった。

最大市場の東アジアは、数量ベースで、インドネシアが316%増と大幅増加となったが、中国が53%減、タイ22%減、マレーシア63%減と各々減少し、東アジア全体では3%減の2,011トンとなった。他市場では、EUは、ドイツ、イタリアが伸び36%増の1,196トン、一方、米国は35%減の329トンとなった。

その他品目では、資材用が中心の**ビニロン綿**は、中国を中心とする東アジアが3%減と不振推移となったが、主力の欧州向けが、スペイン、ドイツが伸び32%増、米国も67%増と大幅に増加し、全体では数量で36%増の1,439トン、金額で57%増の569万ドルとなった。

**スフ綿**は、数量で18%増の6,515トン、金額で27%増の2,428万ドルと好調に推移した。アセテート・トウが83%を占めているが、そのアセテート・トウは中国、韓国、EU、トルコは減少推移となったが、ベトナム、フィリピン、南アフリカが大幅に増加し、全体では、数量で7%増の5,359トン、金額で17%増の2,075万ドルとなった。

一方、ビスコースレーヨン綿は、量は少ないが、米国を中心に、このところ、爆発的に増加しており、数量で倍増の1,038トン、金額で191%増の315万ドルと著増した。

## <糸輸出>

注：財務省輸出統計において、合繊長繊維糸に分類される品目で、2007年から「弾性を有するもの」及び「ポリプロピレン」の2品目が新設されたことから、本年度の統計には「弾性を有するもの」の中にナイロン、ポリエステル、ポリウレタン等の長繊維糸が一部含まれていると推測され、下記品目別の対前年比が整合性に欠けるものとなっている。特に、ポリウレタン長糸は新設された「弾性を有するもの」に殆んどが分類され、統計に上がっていると推測されるので、特に、ポリウレタン長糸の正確な実績は不明である。

参考までに「弾性を有するもの」の今年の輸出実績は次ぎのとおり。

2007年 1月	870トン、	698万ドル	2月	850トン、	718万ドル
	3月	1,544トン、	4月	1,069トン、	946万ドル
	5月	1,158トン、	6月	1,424トン、	1,157万ドル
	7月	1,085トン、	8月	1,143トン、	1,060万ドル
	9月	1,280トン			

糸の輸出は、量的には、人絹糸、合繊長繊維糸、合繊短繊維糸等が総じて低調な推移となったが、主力の合繊長繊維糸の単価が上昇し、全体で数量で3%減の1万1,208トン、金額で3%増の7,838万ドルと数量減の金額増となった。

主要品目の中でナイロン長繊維系は、数量で3%増の2,076トン、金額で9%増の1,410万ドルと好調に推移した。シェア77%の東アジアは、中国、フィリピン、台湾は低調な推移となったが、最大市場のタイ、香港が増加し、3%増の1,679トンとなった。その他では、シェア12%のEUは、ドイツ、ポルトガル、ポーランドが好調に推移し17%増の244トン、また、シェア4%の米国も31%増の71トンとなった。品種別では、タイヤコード用等の「強力系」がシェア64%を占め、数量で6%増の1,331トン、一方、衣料用途用等の「その他系」は3%減の745トンとなった。

ポリエステル長繊維系は、数量で11%減の3,069トン、金額でも11%減の1,301万ドルと数量、金額共に2桁の減少推移となった。シェア60%の東アジアは、台湾が減少したが、最大市場の中国、香港、韓国、タイが健闘し、19%増の2,137トンとなった。その他ではシェア16%の米国は59%減、また、シェア12%のEUも50%減と共に激減した。品種別では、「その他系」がシェア75%を占め、4%減の2,297トン、「強力系」は26%減の772トンとなった。

その他では、アクリル長繊維系は、数量で38%減の1,136トン、金額は21%減の718万ドルとなった。欧米向が主体であるが、主力のEUは66%減と激減し、一方米国は73%増と大幅な増加となった。また東アジアは、香港、中国が減少し12%減となった。

この結果、合繊長繊維系全体では、数量で4%減の9,346トン、金額は5%増の7,233万ドルと数量減の金額増となった。

天然繊維関係では、量は僅少であるが、綿糸は、最大市場の中国が128%と激増、香港が64%減と激減し、全体では数量で64%増の428トン、金額は5%増の205万ドルとなった。この中国、香港の2カ国で全体の89%を占めている。

## ． 織・編物(絹・化合織・綿・毛)の輸出

### <概況>

9月の織物(絹・化合織・綿・毛)の輸出は、ポリエステル短繊維織物が堅調に推移したが、その他の織物は、主力のポリエステル長繊維織物、綿織物、毛織物等総じて不振で、織物トータルでは、数量で前年同月比12%減(前年同期比:5%減)、金額で10%減(同3%減)と、数量、金額共に2桁の減少となった。

なお、この織物トータルの中に含まれていないニット生地は数量、金額共に微減推移、コーテッド織物は数量、金額共に増勢推移となった。

織物トータルで、市場的に見ると、主力の東アジアは、主要国では、ベトナムのみが数量、金額共に前年同月を上回り好調に推移した。また、フィリピン、マレーシアは数量減の金額増となった。一方、中国、香港、韓国、台湾、シンガポール、インドネシア、タイは数量、金額共に前年同月を下回り不振推移となった。

特に、最大市場の中国向けの不振は、今後のわが国の織物輸出にとって大きな不安材料となっている。

一方、純輸出市場については、西アジアは、アラブ首長国が、数量、金額共に前年同期を上回り好調を維持しているが、サウジアラビアは前年同期を下回り、対照的な推移となった。

また、欧米市場は、EUは、量的には減少したが、金額は単価のアップにより2桁の増加となった。一方、米国は数量、金額共に減少推移となった。



## 1. 各品目の輸出状況

(単位：1000SM、1000\$、前年比は数量比%)

	2007年9月			2007年1-9月		
	数量	金額	前年同月比	数量	金額	前年同期比
絹織物	563	7,607	98	5,274	73,905	91
人絹織物	6,132	16,776	85	56,709	163,238	104
スフ織物	796	2,714	152	6,919	26,409	100
合織(長)織物	38,590	76,968	84	403,785	809,286	94
ポリ(長)織物	28,358	52,127	80	302,340	568,287	92
ナイロン織物	5,177	10,716	85	51,156	101,108	95
合織(短)織物	12,370	26,191	100	132,239	270,954	103
ポリ(短)織物	11,484	24,151	101	122,294	248,503	102
綿織物	17,735	54,523	91	205,923	631,456	91
毛織物	4,508	31,920	75	33,462	217,898	93
コーテッド織物	1,607	33,112	116	15,267	330,511	114
ニット生地	13,949	46,219	98	140,344	472,989	102

(注) 1. ポリエステル(長)、ナイロン(長)織物は、ポリエステル、ナイロンの重量が全体の85%以上の織物。

2. コーテッド織物の数量単位はトン。

## 2. 品目別特記事項

### ポリエステル長繊維織物

ポリエステル長繊維織物の9月の輸出は、数量で前年同月比20%減(前年同期比:8%減)、金額で15%減(同4%減)と数量、金額共に大幅な落ち込みとなった。

数量で全体の73%を占める東アジアは、主要市場では、最大市場の中国が24%減(同8%減)と大きく減少したのを始め、香港30%減(同16%減)、韓国13%減(同7%減)、ベトナム22%減(同6%増)、タイ25%減(同5%減)、台湾3%減(同11%減)、シンガポール53%減(同11%減)、マレーシア35%減(同14%減)、スリランカ41%減(同26%減)、フィリピン35%減(同9%減)、インドネシア59%減(同46%減)と軒並み減少し、東アジア全体として23%減(同8%減)と大幅に減少した。

純輸出市場は、西アジア向けは、イエーメン向けに超安値のフェンツが激増したが、アラブ首長国が24%減(同8%増)、サウジアラビアが30%減(同22%減)と大幅に減少し、西アジア全体として16%減(同13%減)となった。

一方、欧米先進国市場は、米国が37%減(同15%減)と先月に続き激減したが、EUは6%増(同6%減)

と堅調な推移となった。

EUの主要国別では、ドイツが16%減(同11%増)、英国2%減(同21%減)と減少したが、フランスが34%増(同横ばい)、イタリア29%増(同1%減)、スペイン52%増(同18%減)と各々好調な推移となった。

ポリエステル(長)織物の1-9月の加工別輸出を見ると、太宗の浸染品は6%減、プリント品が7%減、生機・晒品が21%減と各々減少推移、一方、糸染品は7%増と健闘している。

### ポリエステル短繊維織物

9月のポリエステル短繊維織物の輸出は、数量で1%増(同2%増)、金額で6%増(同4%増)と数量、金額共に堅調に推移した。

市場的には、シェア56%の東アジアと同43%の西アジアの両地域向けでほぼ全量を占めている市場構成に変わりはないが、9月は東アジアが大幅減、西アジアは大幅増と対照的な推移となった。

東アジア向けについては、主要国では、ベトナムが1%増(同12%増)、韓国55%増(同25%減)、シンガポール3%増(同4%減)と増加したが、最大市場の中国が23%減(同9%減)、香港12%減(同9%減)、インドネシア46%減(同27%減)と減少し、東アジア全体として15%減(同6%減)となった。

民族衣装用中心の西アジア向けは、日本品への回帰もあり、サウジアラビアが25%増(同17%増)、アラブ首長国43%増(同26%増)と好調に推移し、クエートは79%減(同19%増)と激減したが、西アジア全体として33%増(同15%増)と大幅な増加となった。

品目別にポリエステル(短)織物の1-9月の輸出を見ると、太宗のT/C織物が7%減、T/R織物が3%減となっているのに対し、100%スパン織物が3%増、また、その他交織織物は19%増と2桁の増加を記録している。

### その他絹化合繊織物

ナイロン織物の9月の輸出は、数量で15%減(同5%減)、金額で3%減(同2%増)と数量、金額共に減少推移となった。

全体の84%と圧倒的なシェアを占める東アジアは、ベトナムが6%増(同9%減)、タイ72%増(同41%減)と増加したが、最大市場の中国が5%減(同2%増)、香港28%減(同30%減)、韓国28%減(同2%減)と減少し、東アジア全体として9%減(同6%減)となった。

一方、欧米市場は、シェア6%の米国は60%減(同8%減)、シェア5%のEUは26%減(同73%増)と共に大幅な減少となった。

加工別の1-9月の輸出は、太宗の浸染品が1%増、プリント品が32%増、一方、生機・晒品は15%減となっている。

人絹織物の9月の輸出は、数量で15%減(同4%増)、金額で13%減(同2%減)と数量、金額共に2桁の減少となった。

全体の73%を占める東アジア向けは、中国が44%増(同14%増)、韓国3%増(同47%増)と好調に推移したが、最大市場の香港が39%減(同1%増)、台湾52%減(同18%減)と減少し、東アジア全体として15%減(同4%増)となった。

東アジア以外の市場では、シェア14%の西アジアは、サウジアラビアが30%増(同1%増)と大幅に

増加したが、アラブ首長国が4%減(同7%増)、イランが壊滅となり、全体として18%減(同3%増)となった。

一方、欧米市場は、シェア4%の米国は27%減(同11%増)、同じくシェア4%のEUも13%減(同3%増)と共に低調な推移となった。

1-9月の素材別輸出では、全体の53%のシェアを占めるアセテート織物は横ばい、同7%のビスコース織物は5%減となっているが、同37%のキュプラ織物は13%増と健闘している。

加工別では、太宗の浸染品は2%増、生機・晒品が14%増、糸染品が5%増、一方、プリント品は40%減となっている。

**スフ織物**の9月の輸出は、数量で52%増(同横ばい)、金額で48%増(同3%増)と、久し振りに、数量、金額共に大幅な増加となった。

全体の82%を占める主力の東アジア向けは、圧倒的シェアを占める持ち帰り用中心の中国が104%増(同2%減)、香港109%増(同88%増)と共に倍増し、東アジア全体として71%増(同8%増)となった。

その他主要市場では、シェア8%の米国は46%減(同18%減)と激減したが、同じくシェア8%の西アジアはアラブ首長国、サウジアラビアが揃って大幅に伸び、121%増(同7%減)の著増となった。

**絹織物**の9月の輸出は、数量で2%減(同9%減)、金額で8%減(同11%減)と数量、金額共に低調な推移となった。

全体の91%を占める東アジア向けは、香港が6%増(同20%増)となったが、最大市場のベトナムが2%減(同4%減)、中国9%減(同21%減)と各々減少し、東アジア全体として4%減(同9%減)となった。

その他市場では、量的には僅少であるが、シェア7%の民族衣装用主体の西アジアは、サウジアラビアが大きく伸び、全体として50%増(同13%減)となった。

## 綿織物

綿織物の9月の輸出は、数量で9%減(同9%減)、金額で10%減(同8%減)と、数量、金額共に低調な推移となった。

全体の80%と圧倒的なシェアを占める東アジア向けは、主要国では、ベトナムが71%増(同22%増)、マレーシア7%増(同6%減)、フィリピン5%増(同12%増)と健闘したが、最大市場の中国が16%減(同14%減)、香港4%減(同8%減)、韓国54%減(同16%減)、タイ44%減(同23%減)、台湾22%減(同11%減)と減少し、東アジア全体として12%減(同11%減)となった。

他市場では、シェア12%の米国は6%増(同3%増)と堅調な推移となった。

1-9月の加工別輸出では、太宗の糸染品は2%増と増勢を維持しているが、浸染品は11%減、プリント品は15%減、晒品は22%減、生機品は28%減と何れも減少推移となっている。

## コ-テッド織物

9月のコーテッド織物の輸出は、数量で16%増(同14%増)、金額で9%増(同12%増)と数量、金額共に引き続き好調を維持している。

全体の81%のシェアを占める東アジア向けは、最大市場の中国が19%増(同17%増)、香港8%増(同4%減)、ベトナム42%増(同30%増)、タイ43%増(同12%増)と各々好調に推移し、東アジア全体として16%増(同12%増)となった。

一方、欧米市場は、シェア 6%の米国は 71%増（同 52%増）と好調を持続しており、シェア 5%のEUも 4%増（同 2%増）と堅調な推移となった。

## 毛織物

9月の毛織物の輸出は、数量で 25%減（同 7%減）、金額で 23%減（同 9%減）と数量、金額共に大幅な落ち込みとなった。

市場的には、東アジアが 96%とほぼ全量を占めている。主要国では、ベトナムが 15%増（同 43%増）と健闘したが、最大市場の中国が 7%減（同 6%減）、香港 24%減（同 4%減）、韓国 27%減（同 8%減）と減少し、東アジア全体として 25%減（同 8%減）となった。

## ニット生地

ニット生地の 9月の輸出は、数量で 2%減（同 2%増）、金額で 3%減（同 3%増）と、数量、金額共に微減推移となった。

市場的には、東アジアが圧倒的なシェアを占めているが、これを主要国別に見ると、ベトナムが 18%増（同 2%減）、台湾 39%増（同 9%減）と好調に推移した。一方、全体の 62%のシェアを占める最大市場の中国は 8%減（同 7%増）、香港 5%減（同 10%減）、韓国 46%減（同 3%増）、インドネシア 7%減（同 6%増）、タイ 23%減（同 20%減）と各々低調な推移となった。

また、欧米先進国向けは、米国が 18%減（同 19%増）と低迷したが、EUは 72%増（同 33%増）と前月に続き大幅な増加となった。

## 主要繊維二次製品の輸出

### <概況>

繊維二次製品の 2007 年 9月の輸出は、金額（ドル）ベース（以下同じ）で、アパレルは、布帛製外衣は増加したが、布帛製下着及びニット製外衣・下着が何れも減少推移となり、全体では前年同月比 5%減の 3,311 万ドルとなった。他方、その他の品目については、敷物が増加推移となったが、細幅織物・紐類及び漁網・その他の網・網地等は減少推移となった。

### <アパレル>

**布帛製外衣**：主要市場では、韓国が 12%減、香港 4%減と不振推移となったが、最大市場の米国が 23%増、台湾 12%増、中国 29%増、EU 29%増と各々好調に推移し、全体として 16%増の 1,267 万ドルと 2桁の増加となった。なお、この 6カ国・地域で全体の 94%を占めている。

**布帛製下着**：主要市場では、中国が 30%増、シンガポール 398%増と大きく伸びたが、最大市場の台湾が 47%減、香港 34%減、韓国 28%減、タイ 28%減、EU 22%減、米国 40%減と不振推移となり、全体として 29%減の 269 万ドルとなった。なお、この 8カ国・地域で全体の 91%を占めている。

**布帛製スカーフ・マフラー類**：香港が 9%増、サウジアラビアも著増したが、最大市場のアラブ首長国が

10%減、米国 30%減、EU 60%減と各々減少し、全体では 25%減の 64 万ドルとなった。なお、この 5 カ国・地域で全体の 84%を占めている。

**ニット製外衣**：主要市場では、最大市場の香港が 24%増、中国 3%増、米国 18%増と各々増加したが、台湾は 33%減、韓国 16%減、EU 9%減と減少し、全体では 7%減の 767 万ドルとなった。なお、この 6 カ国・地域で全体の 97%を占めている。

**ニット製下着**：主要市場では、韓国が 8%増、中国 215%増と増勢推移となったが、最大国の台湾が 30%減、香港 26%減、米国 57%減、EU 17%減と各々低調な推移となり、全体では 15%減の 453 万ドルとなった。なお、この 6 カ国・地域で全体の 95%を占めている。

### 2007 年 9 月の主要繊維二次製品輸出状況

単位：千米ドル、金額：前年比%

	2007 年 9 月		2007 年 1 ~ 9 月	
	金額	前年同月比	金額	前年同期比
布帛製衣類・付属品	17,644	98	157,816	104
外 衣	12,665	116	100,187	109
下 着	2,691	71	34,134	101
スカーフ・マフラー	636	75	5,299	93
ニット製衣類・付属品	15,464	92	113,192	100
外 衣	7,666	93	40,580	100
下 着	4,529	85	47,489	100
敷 物	3,656	151	25,842	121
漁 網 ・ 網 ・ 網 地	2,919	66	30,612	89
細 幅 織 物 ・ 紐 類	13,165	96	128,413	97

#### <敷物>

主要国では、最大市場の中国が 15%減となったが、その他は、ベトナム 121%増、香港 26%増、台湾 13%増、タイ 117%増、韓国 263%増、米国 20%増、メキシコ 32 倍増と軒並み好調に推移し、全体では 51%増の 366 万ドルと大幅な増加となった。

#### <漁網・その他の網・網地>

主要国では、中国が 3%増、韓国 40%増、EU 71%増と健闘したが、最大市場のベトナムが 15%減、ロシア 17%減、フィリピン 86%減、米国 74%減、オーストラリア 22%減、チリ 14%減と各々後退し、全体では 34%減の 292 万ドルとなった。

#### <細幅織物・紐類>

主要国では、香港が 16%増、ベトナム 6%増、シンガポール 637%増、EU 14%増と増勢で推移したが、最大市場の中国が 4%減、タイ 49%減、フィリピン 9%減、米国 13%減、メキシコ 9%減と何れも低調な推移となり、全体では 4%減の 1,317 万ドルとなった。

## 2007年8月の繊維品輸入概況

### 1. 繊維製品計

8月の輸入は、金額が円ベースで前年同期比104.0%（前月比は118.3%）、ドルベース同103.2%（前月比は123.2%）、数量(重量)同99.3%（前月比は114.2%）となり、円金額が5ヶ月続けて増加、ドル金額は2ヶ月続けて増加、数量はほぼ横這いながら2ヶ月ぶりに減少した。前月比は、金額、数量(重量)ともに秋冬物の入荷時期を向え増加。

糸類は数量で前年同期比1.8%増と2ヶ月連続で増加。内訳は、人織(長)糸、人織(短)糸が増加、絹糸、毛糸、綿糸、その他の糸が減少した。織物類は同0.5%の微減ながら2ヶ月ぶりに減少した。絹織物、黄麻織物、人織(長)織物、人織(短)織物、メリヤス生地、その他の織物が増加、毛織物、綿織物が減少となった。衣類は同0.3%の微増となり2ヶ月続けて増加。衣類を除いたインテリア用品等の二次製品は同3.8%減で2ヶ月ぶりの減少となった。

前月は前年同期比で円金額が12.8%増加したほか、ドル金額も7.3%、数量も5.8%の増加となったが、今月は円金額が4.0%増加、ドル金額も3.2%増加したものの、数量は0.7%の微減となった。なお、8月の為替相場は、前年同月比84銭円安の116円72銭。ドル金額の内訳を見ると、糸類が7.9%の増加、織物類は1.9%減、太宗を占める衣類は3.5%増、二次製品も2.0%増加し、繊維製品計では3.2%の増加となった。

### 2. うち糸類

➤ 綿糸の輸入実績は、トンベースで3ヵ月連続プラスの前月比4.0%増となったが前年同月比は13.2%の落ち込みとなった。これは、昨年が前半の低水準輸入に比べ8月以降市況の回復もあり増加に転じたことによるものと思われる。全体の86%を占める純綿糸の輸入実績を前月に比較すると国別ではインドネシア等その他が落ち込んだものの首位のパキスタンが5.6%増、前月4位であった中国が45.2%増と大きく躍進して2位となり、3位のインドも17.8%の増加となった。番手別に見ると20番手中心同12.8%、30番手中心同10.3%、40番手中心も同31.4%の増加となったが、40番手以上は同5.8%の減少となった。糸種別にみると、カード糸同9.8%、コーマ糸も10.5%の増加となった。なお、混紡綿糸は23.1%の減少となった。

➤ 毛糸の輸入実績は前年同月比重量ベース20.9%減と3ヶ月続けて2桁の大幅減となった。糸種別に見ると、紡毛糸が同23.3%減と3ヶ月連続で減少、太宗を占める梳毛糸も同20.7%減となった。国別では、トップシェアの中国が同18.8%減と3ヶ月続けて大きく減少したのに加え、第2位のマレーシアも同33.0%減少した。この他の主要国では、イタリアが増加したものの、台湾、タイ、インド、ペルーからの輸入は減少。

➤ 人織糸の輸入実績は、トンベースで人織(長)糸が前月比6.4%減となったものの前年同月比は16.2%増となり11ヵ月連続でプラスとなった。これは、依然としてポリエステル糸が前年を上回る

高水準の輸入が続いていることによるものである。主要商品を前月に比較するとポリエステル系は前月の史上最高からすると11.9%減となったものの、ナイロン系は今年1月以来の2千トン台回復もあり18.4%のプラス、量的に少ないものの人絹系は28.4%増となった。一方、人織(短)系はT/C、T/Rのポリエステル紡績系は2.5%増となったものの、アクリル紡績系、スフ系が減少となったこともあり全体では前月比3.7%減、前年同月比は1.6%の微増となった。

### 3. うち織物類

- 綿織物の輸入実績は、面積ベースで前月比2.6%減、前年同月比も10.3%と2桁の減少となり6ヵ月連続のマイナスとなった。これは、中国の生産コストの上昇と我が国需要の低迷によるものと思われる。国別に前月と比較すると、全体の5分の4を占める中国はほぼ前月並となったが、2位のインドネシア同11.9%減、3位のマレーシアは同48.2%の増加となった。品目別にみると、主力のポプリンが2.4%の増加、金巾6.4%減、粗・細布は1.9%の微増に留まった。
- 毛織物の輸入実績は、面積ベースで前年同月比7.7%減少し、11ヶ月続けて減少となった。国別では数量で第1位の中国からの輸入が同7.3%減と10ヶ月ぶりに増加した前月から再び減少、2位のイタリアからの輸入も7.9%減となった。また、第3位のイギリスも同23.2%減で3ヶ月続けて減少。品種別では、紡毛織物が同23.1%減と7ヶ月連続で減少、主力の梳毛織物も同4.5%減と11ヶ月続けて減少した。
- 人織織物の輸入実績は、面積ベースで人織(長)織物が前月比3.3%の減少となったものの、前年同月比は19.2%増と10ヵ月連続のプラスとなった。これは、主力のポリエステル織物、ナイロン織物が昨年11月より増加が続いていることによるものである。商品別に前月に比較するとナイロン織物が69.7%増となったものの、主力商品のポリエステル織物は6.1%減、ポリプロピレン等其他織物も5.3%のマイナスとなった。一方、人織(短)織物は主力商品のT/C、T/Rのポリエステル織物は8.9%減、インドネシアからの資材向け中心のスフ織物も3.3%減となり、全体では前月比8.2%減、前年同月比は8.9%の増加となり7月の横這いを含めて7ヶ月連続プラスとなった。

### 4. うち衣類

ニット製衣類が対前年同月比(枚数)で7.7%増、布帛製衣類は同2.3%減、身の廻り品は重量ベース1.4%増加し、衣類計で重量ベース0.3%の微増となった。ニット製衣類が5ヶ月続けて増加し、布帛製衣類は5ヶ月ぶりに増加した前月から再び減少、身の廻り品は2ヶ月続けて増加、衣類計も2ヶ月続けて増加した。

主要国別に見ると

- 中国は対前年同月比(枚数)でニット製衣類が8.4%増加し5ヶ月続けて増加、布帛製衣類は2.6%減で2ヶ月ぶりの減少、身の廻り品は重量ベース3.5%増で2ヶ月続けて増加した。今年1~8月の衣類計(重量)のシェアは91.0%で前月から0.2ポイント増(金額ベースでのシェアは82.4%で前月から0.3ポイント増)。
- 韓国はニット製衣類が同12.0%減、布帛製衣類が同20.5%の大幅減となり、ニット製衣類が2ヶ月

連続で減少、布帛製衣類は16ヶ月連続で減少した。

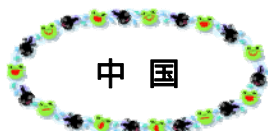
▶イタリアはニット製衣類が同28.5%の大幅減となり7ヶ月続けて減少、布帛製衣類も同19.4%減少となり3ヶ月続けて減少した。

▶ベトナムはニット製衣類が同19.7%増と2ヶ月続けて増加、布帛製衣類も同0.7%の微増ながら5ヶ月続けて増加した。

▶商品別には、ニット製衣類ではコート、アンサンブル、ズボン、ドレス、アウターシャツ、セーター、下着類が増加、スーツ、ジャケット、スカート、スポーツウェアが減少となった。布帛製外衣類では紳士用が同0.1%の微増、婦人用は同4.2%減少した。紳士用では、コートが増加、スーツ、アンサンブル、ジャケット、ズボン、下着類が減少、婦人用はコート、ドレス、下着類が増加、スーツ、アンサンブル、ジャケット、スカート、ズボン、ブラウスが減少となった。

前月は数量が対前年同月比5.8%増、金額は円ベースで12.8%増、ドルは7.3%の増加となったが、今月は数量が0.7%の微減、金額は円ベースで4.0%増、ドルは3.2%の増加と、数量こそ微減となったものの総じて堅調な輸入となった。

一方、9月の国内消費市況は「異常高温のため、本来実需期に入るべき秋物衣料を中心に、好調を維持してきたファッション雑貨なども苦戦を強いられた」(日本百貨店協会)と、ファッショントレンドに敏感な婦人用品を中心に全般的に低調で、9月以降の冬物入荷への悪影響が懸念される。



中国

## 中国、2007年1-9月の繊維品貿易概況

### 1. 輸出は21%増の1,226億3,994万ドルと依然高率の伸びを維持

2007年1-9月の中国の繊維品輸出は、前年同期比21%増の1,226億3,994万ドルと、依然高率の伸びを維持している。

これを月別の伸びで見ると、本年1月の伸びは前年同月比20%増、2月は同74%増と飛躍的に伸び、3月は同23%減と一転して大幅に減少し先行きが注目されたが、以後4月は17%増、5月は19%増、6月は26%増、7月は29%増、8月21%増、9月は26%増と高率の伸びを維持している。

7月から実施された増徴税の還付率の引き下げ、更に8月後半から実施された加工貿易の制限強化の輸出への影響が注目されたが、今のところその影響は余り数字には現れていない。

#### <地域別・国別輸出状況>

地域別では東アジアがシェア36%(前年同期比10%増)、ヨーロッパが同27%(同22%増)、北米が同17%(同32%増)、西アジアが同8%(同46%増)、中米が同3%(同35%増)、南米が同2%(同32%増)、アフリカが同5%(同39%増)、大洋州が同2%(同16%増)の市場構成となっており、各地域共に軒並み増勢推移となっている。



国別では、1位EU(201億2,045万ドル:横ばい) 続いて米国(174億2,273万ドル:28%増) 日本(140億678万ドル:4%増) 香港(134億7,075万ドル:3%増) ロシア(71億567万ドル:127%増) 韓国(39億8,106万ドル:5%増) カナダ(34億1,317万ドル:51%増) アラブ首長国(30億886万ドル:54%増) シンガポール(25億9,589万ドル:74%増) トルコ(24億5,148万ドル:54%増) オーストラリア(19億9,598万ドル:15%増) カザフスタン(16億1,163万ドル:41%増) 南アフリカ(13億5,588万ドル:24%増) メキシコ(13億2,041万ドル:10%増)の順となっている。

国別でも軒並み増加推移となっているが、東アジア向けはシンガポールを除き、香港、日本、韓国等は低い伸びに止まっているのに対し、北米の米国、カナダ、ヨーロッパのロシア、トルコ、カザフスタン、またアラブ首長国、南アフリカが大きな伸びを記録している。

またEUは横ばい止まっているが、これは、今年からEUに加盟したルーマニア、ブルガリアが、昨年の著増から、今年は一転して激減しているのが大きな要因である。

### <品目別輸出状況>

品目別では、中国の繊維品輸出全体の66%を占める最大輸出品目の衣料品及び同付属品の輸出は、25%増の808億157万ドルと、全体の伸びを上回り、中国の繊維品輸出を牽引している。

内容的には、ニット製の衣料品及び同付属品の輸出が40%増の451億1,115万ドル、布帛製衣料品及び同付属品の輸出は10%増の356億9,043万ドルで、特にニット製衣料品が大幅な伸びとなっているのが目立っている。

衣料品の主要輸出先は、ニット製衣料品は、トップ市場は米国(59億1,936万ドル:62%増) 続いてEU(57億7,347万ドル:22%減) 日本(57億6,179万ドル:11%増) ロシア(48億5,065万ドル:261%増) 香港(38億6,873万ドル:9%増) カナダ(17億6,798万ドル:122%増) シンガポール(17億2,287万ドル:180%増) アラブ首長国(13億3,612万ドル:127%増) カザフスタン(11億2,205万ドル:56%増)、韓国(10億9,946万ドル:1%減) パナマ(9億6,854万ドル:199%増)、オーストラリア(8億3,258万ドル:16%増)の順となっており、米国、カナダ、ロシア、シンガポール、アラブ首長国、カザフスタン、パナマは大幅増加、一方、EUは2桁の減少となっている。

布帛製衣料品の輸出先は1位がEU(89億4,537万ドル:8%増) 以下、米国(69億5,485万ドル:23%増) 日本(59億1,942万ドル:横ばい) 香港(29億1,939万ドル:1%減) ロシア(13億6,945万ドル:23%増) 韓国(12億1,296万ドル:5%増) カナダ(11億9,269万ドル:14%増) オーストラリア(6億7,288万ドル:13%増) パナマ(5億9,039万ドル:23%増) スイス(5億4,043万ドル:55%増)の順となっている。

衣料品以外の素材輸出は、原料類(綿・糸)は好調に推移しているが、織物類は特に量的には伸び悩んでいる。

織物類の輸出は、太宗の綿織物、合繊短繊維織物、合繊長繊維織物が、量的には横ばいと伸び悩み、全体として、数量で1%減の132億8,366万メートルとなった。但し、金額は、単価のアップにより5%増の133億4,100万ドルとなった。

糸類の輸出は、各品目共に増勢で推移しており、合繊長繊維糸、中でも特にポリエステル長繊維糸の伸びが大きく、またその他の綿糸、合繊短繊維糸も増勢を維持しており、全体として数量で21%増の160万6,442トン、金額で18%増の55億2,472万ドルと、数量、金額共に増加推移となっている。

綿類の輸出は、毛・絹等の天然繊維、ポリエステル綿を中心とする合繊綿、またスフ綿の輸出が共に大增勢で推移しており、数量で40%増の51万6,254トン、金額で47%増の14億5,394万ドルと、規模は未だ小さいが、非常に高い伸びを記録している。

## 2. 輸入は3%減の191億1,836万ドルと低調に推移

一方繊維品輸入は、綿類の輸入は、綿花輸入の急減もあり大幅な減少推移、糸類、織物類は共に数量減の金額横ばい、衣料品、ニット生地等は増加推移となっているが、全体として3%減の191億1,836万ドルと低調な推移となっている。

この結果、中国の2007年1-9月の繊維品貿易収支の黒字額は前年同期比27%増の1,035億2,158万ドルと1,000億ドルを突破した。

### <地域別、国別輸入状況>

地域別では東アジアがシェア70%（前年同期比：横ばい）を占め、西アジアが同2%（同41%減）、ヨーロッパが同8%（同20%増）、北米が同10%（同28%減）、中米が同0.2%（同24%減）、南米が同1%（同19%減）、アフリカが同2%（同37%減）、大洋州が同7%（同28%増）の市場構成となっており、ヨーロッパ、大洋州からの輸入は増加しているが、北米からの減少が目立っている。



国別では、1位日本(26億4,147万ドル:2%減)、台湾(24億7,508万ドル:3%減)、韓国(20億4,415万ドル:2%減)、米国(19億1,265万ドル:29%減)、EU(14億3,027万ドル:18%増)、香港(13億1,756万ドル:5%減)、オーストラリア(12億4,096万ドル:31%増)、インド(7億1,900万ドル:3%減)、パキスタン(5億9,526万ドル:9%増)の順となっている。米国の大幅な減少は、綿花の輸入減が最大の要因である。

#### <品目別輸入状況>

品目別輸入を見ると、綿関係では、天然繊維の輸入は米国よりの綿花の輸入が大きく減少し、また、合繊綿の輸入も低調で、数量で27%減の331万1,640トン、金額で16%減の56億5,340万ドルと大幅な減少となった。

糸関係は、太宗の綿糸は順調な推移となっているが、合繊長繊維糸、合繊短繊維糸は共に低調な推移となっており、全体として数量で4%減の130万6,534トン、金額で横ばいの33億2,689万ドルとなった。

一方織物類は、太宗の綿織物、合繊長繊維織物が何れも数量減の金額増となっており、トータルでは、数量で7%減の29億8,405万メートル、金額で1%増の43億6,469万ドルと数量減の金額増となった。

その他品目では、ニット生地が金額で10%増の17億3,361万ドル、コーテッド織物が5%増の8億4,238万ドルと増勢で推移している。

また衣料品は、額は小さいが、ニット製衣料品が6%増の5億9,298万ドル、布帛製衣料品が12%増の7億3,511万ドルと何れも着実に増加している。



香港

#### 香港の2007年(1-9月)の繊維品貿易概況

#### <輸出入共に横ばい推移>

香港の2007年1-9月の繊維品貿易は、輸出は前年同期比横ばいの304億8,333万ドル、輸入も横ばいの239億7,071万ドルと、輸出入共に揃って横ばい推移となっている。

#### 輸出

地域別の輸出先をみると、全体の42%を占める東アジア向けは4%減の126億6,737万ドル、28%を占める北米が4%増の84億7,860万ドル、24%を占めるヨーロッパが6%増の73億7,807万ドルで、この3地域で全体の94%を占めているが、欧米向が堅調に推移しているのに対し東アジアが不振推移となっている。

主要国別輸出では、1位の中国は6%減の85億2,535万ドルと減少しているが、続く米国は4%増の77億4,153万ドル、EUは6%増の70億2,527万ドルと欧米市場は何れも堅調に推移している。

以下日本が横ばいの12億2,257万ドル、カナダ8%増の7億3,707万ドル、オーストラリア1%増の4億8,679万ドル、ベトナム30%増3億3,927万ドル、インドネシア15%増の3億3,786万ドル、カンボ

ジア 7%増の 3 億 1,502 万ドル、バングラデッシュ 11%減の 2 億 8,112 万ドルの順となっている。

品目別輸出では、全体の輸出の 66%を占める最大輸出品目の衣料品は、ニット製衣料品が 5%増の 104 億 8,991 万ドルと堅調に推移しているが、布帛製衣料品は横ばいの 97 億 7,565 万ドルに止まっている。

織物類の輸出は、主要織物の綿織物及び合繊長繊維織物が数量、金額共に減少し、織物全体として、数量で 13%減の 52 万 758 トン、金額で 6%減の 33 億 6,577 万ドルと不振推移となっている。

原料関係も総じて伸び悩んでおり、糸類の輸出は、最大輸出品目の綿糸、また合繊長繊維糸が数量、金額共に減少し、全体として、数量で 7%減の 72 万 9,013 トン、金額で 2%減の 27 億 9,325 万ドルとなった。また綿類の輸出も不振で、数量で 9%減の 11 万 5,471 トン、金額で 3%減の 1 億 4,600 万ドルとなっている。

#### 香港の繊維品の主要国への輸出状況(2007年1-9月)(単位:100万ドル)

	2006年1-12月	2007年1-9月	対前年同期比 (%)
全世界	40,828	30,483	100
中国	11,911	8,525	94
米国	10,247	7,742	104
E U	9,043	7,025	106
日本	1,694	1,223	100
カナダ	911	737	108
オーストラリア	631	487	101
ベトナム	366	339	130
インドネシア	403	338	115
カンボジア	392	315	107
バングラデシュ	422	281	89
フィリピン	353	247	93
シンガポール	346	237	93

#### 輸 入

一方輸入については、地域別では、92%と圧倒的なシェアを占める東アジアからの輸入が横ばいの 219 億 5,128 万ドルに止まり、シェア 7%のヨーロッパは 6%増の 15 億 8,930 万ドルで、両地域からの輸入が 98%を占めている。

国別では 1 位が中国で 4%増の 175 億 8,393 万ドル(シェア 73%)、2 位は E U で 5%増の 14 億 7,806 万ドル、以下香港(注:香港の統計では、第三国(ほとんどが中国と思われる)に原材料を輸出し完成品を輸入した場合、その付加価値部分は、中国からの輸入となるが、原材料輸出部分は香港の輸入として分類される。)で 32%減の 10 億 7,452 万ドル、台湾 13%減の 10 億 160 万ドル、韓国 8%増の 6 億 2,804 万ドル、日本 1%減の 6 億 1,680 万ドル、パキスタン 8%減の 3 億 9,610 万ドル、米国 11%増の 2 億 9,283 万ドル、インド 11%増の 1 億 8,514 万ドルとなっている。

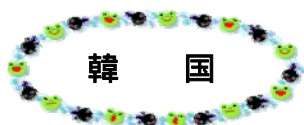


品目別輸入では、全体の56%を占める最大品目の衣料品の輸入は、ニット製衣料品が5%増の73億225万ドル、布帛製衣料品が1%増の62億953万ドルと、各々微増推移となっている。

その他品目では、織物類の輸入は、最大品目の綿織物、また合繊長繊維織物が低調で、全体として、数量で13%減の51万7,904トン、金額で5%減の34億1,853万ドルとなっている。

原料関係の輸入も低調で、糸類は、最大品目の綿糸の輸入が減少し、合繊長繊維糸は数量減の金額増となったが、全体として、数量で6%減の79万8,422トン、金額で1%減の31億8,947万ドルとなった。

また綿類の輸入も、数量で11%減の19万6,960トン、金額で1%減の2億7,860万ドルとなった。



## 韓国の2007年(1-9月)の繊維品貿易概況

### <輸出は前年同期比1%増の98億8,845万ドルと微増推移>

韓国の繊維輸出は、中国を始めとする東アジア諸国との競合の激化等により、過去4年連続の減少を余儀なくされているが、2007年1-9月の輸出は1%増の98億8,845万ドルと微増推移となっており、徐々に減少に歯止めがかかるか、今後の推移が注目される。

地域別では、主要地域では、シェア55%を占める東アジア向けは横ばいの54億5,934万ドル、同14%の北米が14%減の13億4,990万ドル、同じく14%の欧州が20%増の13億6,593万ドル、同7%の西アジアが4%増の7億2,737万ドルとなっており、東アジアは停滞、枠が撤廃された、欧米市場では、欧州が大幅に増加しているのに対し、北米が2桁の減少と対照的な推移となっているのが注目される。

主要国では、第1位市場の中国は3%減の20億8,016万ドル、続く米国が14%減の12億6,418万ドルと何れも減少推移となっているが、第3位のEUは25%増の9億9,929万ドルと大幅な増加となっている。中国に枠が再設定された優位性をEU向けは享受し、逆に米国向けは苦戦している。以下、ベトナムが19%増の7億5,544万ドル、香港が7%増の6億6,986万ドル、インドネシアが2%増の5億6,600万ドル、日本が5%減の4億6,315万ドル、アラブ首長国が6%増の2億6,879万ドルの順となっている。

品目別輸出では、原料関係では、綿類の輸出は、数量で7%増の53万2,463トン、金額で17%増の7億7,705万ドルと好調に推移している。太宗品目の合繊綿は、中心品目のポリエステル綿、また、アクリル綿が共に好調で、数量で7%増の51万5,984トン、金額で19%増の7億4,294万ドルとなった。合繊綿の最大市場(金額ベース)はEUで57%増の1億7,380万ドルと大幅に増加、続いて米国が17%増の1億4,679万ドル、中国6%増の1億4,236万ドル、イラン32%増の3,203万ドル、ロシア6%増の2,687万ドルと何れも増勢推移となっている。この5カ国で全体の70%を占めている。

糸類の輸出は、数量で5%減の29万2,149トン、金額で7%増の10億5,774万ドルと数量減の金額増となった。太宗品目は合繊長繊維糸であるが、中心品目のポリエステル長繊維糸が減少したが、ナイロン長繊維糸が特に金額で好調で、全体で、数量で7%減の24万8,322トン、金額で9%増の8億4,072万ドルと数量減の金額増となった。合繊長繊維糸の最大市場(金額ベース)は中国で2%減の1億5,418万ドルと後退、第2位はEUで12%増の1億4,017万ドルと2桁の増加、続いてトルコが13%増の7,790

万ドル、米国 1%減の 7,772 万ドル、香港 76%増の 6,918 万ドルとなっている。

織物類の輸出は、総じて不振で、金額で 4%減の 20 億 7,510 万ドルとなった。

中でもかつては、韓国繊維品輸出の代表的品目であったポリエステル長繊維織物は、金額で 3%減の 8 億 8,745 万ドルと引き続き苦戦が続いている。

ポリエステル長繊維織物の主要輸出国（金額ベース）は、1 位が中国で 16%増の 1 億 7,416 万ドル、2 位がアラブ首長国で横ばいの 9,184 万ドル、続いて香港が 3%減の 7,848 万ドル、サウジアラビアが 4%増の 7,280 万ドル、EU が 1%減の 7,246 万ドル、米国が 19%減の 6,383 万ドル、ベトナム 5%増の 6,115 万ドル、インドネシア 20%減の 4,277 万ドルとなっている。

その他主要織物類では、綿織物が 6%減の 4 億 2,249 万ドル、合繊短繊維織物が 10%減の 1 億 4,250 万ドルと何れも減少推移となった。

このように織物類は総じて不振であるが、ニット生地が 9%増の 23 億 6,758 万ドルと好調に推移しており、品目別で韓国の最大の輸出品目となっているのが注目される。

なお、衣料品の輸出は、ニット製衣料品が 11%減の 7 億 7,282 万ドル、一方、布帛製衣料品は 12%減の 5 億 4,921 万ドルで何れも 2 桁減と低調な推移となっている。

#### < 輸入は 10%増の 64 億 5,482 万ドルと衣料品を中心に 2 桁の増加 >

一方、韓国の繊維品の輸入は、主に中国からの衣料品輸入の増加により、前年同期比 10%増の 64 億 5,482 万ドルと 2 桁の増加となっている。

地域別では、シェア 80%を占める東アジアは 11%増の 51 億 6,941 万ドル、シェア 12%の欧州が 4%増の 7 億 4,570 万ドル、シェア 5%の北米は 2%増の 2 億 9,307 万ドルと何れも増加推移となっている。

国別では、最大輸入先の中国は 15%増の 38 億 6,652 万ドル、EU は 5%増の 6 億 8,842 万ドルと上位 2 カ国は共に増加推移、続いて日本が 1%減の 3 億 1,308 万ドル、米国が 2%増の 2 億 7,219 万ドル、インドが 13%減の 1 億 9,852 万ドル、インドネシアが 3%増の 1 億 9,847 万ドル、ベトナムが 35%増の 1 億 6,535 万ドル、台湾が 3%減の 1 億 3,235 万ドルとなっている。

品目別輸入では、綿類の輸入は数量で 6%増の 25 万 6,956 トン、金額で 5%増の 5 億 6,145 万ドルとなった。その大半は綿花を中心とする天然繊維原料の輸入である。

糸類の輸入は数量で 1%増の 42 万 4,670 トン、金額で 3%増の 12 億 7,407 万ドルとなった。内訳は、最大品目の綿糸の輸入が減少しているが、合繊長繊維糸、特にポリエステル長繊維糸の輸入が高い伸びを記録している。

織物類の輸入は金額で横ばいの 8 億 1,330 万ドルとなった。主要織物の内訳は、綿織物が 8%減の 2 億 8,430 万ドル、ポリエステル長繊維織物が逆に 29%増の 9,503 万ドル、合繊短繊維織物は横ばいの 1 億 2,327 万ドルとなった。

また衣料品の輸入は、主に、中国からの輸入が大幅に増加しており、ニット製衣料品が 22%増の 9 億 5,979 万ドル、布帛製衣料品は 15%増の 19 億 7,398 万ドルと何れも大幅な増加となった。



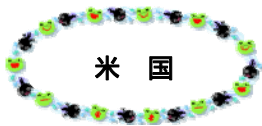
2007年1～9月の韓国の繊維品輸出入状況

単位：1000ドル

	輸				出				入					
	2006年実績		2007年(1～9)		2006年実績		2007年(1～9)		2006年実績		2007年(1～9)		前年比	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
繊維品合計	13,010,448	9,888,451							7,983,531	6,454,821			110	
原料(綿)合計	663,931	899,183	532,463	777,045	TON				322,484	700,792	TON		106	105
スフ綿	7,609	31,522	5,013	19,917	TON				47,561	124,840	TON		105	111
合繊綿	643,682	850,520	515,984	742,943	TON				15,413	40,711	TON		89	100
(ポリエステル)	566,256	710,746	451,611	621,546	TON				3,768	6,215	TON		81	102
(アクリル)	37,694	73,537	30,513	64,439	TON				6,637	16,010	TON		69	74
糸合計	399,667	1,296,856	292,149	1,054,472	TON				565,390	1,656,444	TON		101	103
人絹糸	983	8,450	847	6,616	TON				25,268	111,896	TON		95	101
スフ糸	5,910	33,778	10,282	43,863	TON				20,942	56,896	TON		97	115
合繊長繊維糸	346,440	1,025,892	248,322	840,717	TON				149,751	410,560	TON		122	121
(ナイロン)	62,143	223,600	46,720	184,745	TON				22,934	98,336	TON		90	102
(ポリエステル)	234,409	505,400	162,951	370,909	TON				108,894	182,489	TON		133	138
合繊短繊維糸	15,447	89,790	9,270	58,458	TON				135,578	351,884	TON		103	111
綿糸	26,007	89,676	23,522	74,281	TON				220,395	592,648	TON		87	88
繊維物合計	2,857,623	2,075,102							1,058,256	813,295			100	
絹織物	125,582	79,853							98,777	65,071			88	
人絹織物	185,632	141,996	164,786	113,074	千SM				4,440	11,335	千SM		563	129
スフ織物	140,456	91,224							34,348	23,049			94	
合繊長繊維織物	1,819,178	1,555,135	2,875,240	1,162,843	千SM				293,563	158,900	千SM		136	125
(ナイロン)	168,968	119,177	91,798	80,033	千SM				53,709	14,966	千SM		15	88
(ポリエステル)	1,319,203	1,201,930	2,549,856	887,451	千SM				190,357	100,302	千SM		166	129
合繊短繊維織物	201,190	142,502								161,146			123,265	100
綿織物	607,970	422,493								398,895			284,295	92
毛織物	70,341	55,277								150,969			133,607	109
不織布	79,591	438,220	61,292	326,674	TON				30,300	140,353	TON		114,687	109
タイヤコード織物	290,898	232,855								67,448			64,334	128
コーテッド織物	835,623	620,883								69,289			58,039	112
ニット生地	2,899,078	2,367,576								83,568			68,185	107
ニット製衣料	1,172,501	772,819								1,049,479			959,785	122
布帛製衣料	799,205	549,205								2,443,854			1,973,981	115
その他	1,521,261	1,111,820								714,048			566,998	106

(注)ポリエステル長繊維織物の輸出入数量に疑義があるが韓国統計原本どおり。  
人絹織物の輸出入数量に疑義があるが韓国統計原本どおり。

出所：韓国通関統計



## 2007年9月の繊維品輸入 ～好調続く中国、ベトナムからの輸入～

米国商務省が発表した2007年9月の米繊維品輸入は、47億6,600万SME(平方メートル換算)で前年同月比0.1%の微増(1～9月前年同期比:2.2%増)となった。6月に落ち込んだアパレルが9月に再度前年同月比2.1%減と落ち込んだが、織物、その他(アパレル以外の繊維製品)が伸びたノン・アパレルが前年同月比2.2%増と盛り返したことにより、全体として微増となった。主要国では中国(1-9月シェア数量39.9%、金額33.5%)、ベトナム(同数量2.7%、金額4.6%)の好調が続いており、この両国に食われた形で、その他の国は精彩を欠いている。

### 米国の繊維品輸入推移(商品別)

単位:100万SME、%

	ノン・アパレル		アパレル		合 計	
	数 量	前年比	数 量	前年比	数 量	前年比
2000年	16,829	16.0	16,035	13.7	32,864	14.9
2001年	16,708	0.7	16,103	0.4	32,812	0.2
2002年	21,033	25.9	17,256	7.2	38,288	16.7
2003年	23,363	11.1	18,864	9.3	42,227	10.3
2004年	26,985	15.5	19,951	5.8	46,936	11.2
2005年	28,827	6.8	22,010	10.3	50,836	8.3
2006年	29,607	2.7	22,539	2.4	52,146	2.6
2007年	22,535	0.0	17,721	5.0	40,256	2.2
1月	2,373	5.2	1,919	13.0	4,292	2.2
2月	2,250	4.5	1,723	8.6	3,973	6.2
3月	2,341	0.9	1,797	6.5	4,138	2.2
4月	2,411	4.2	1,614	8.1	4,025	0.4
5月	2,711	0.2	1,833	9.9	4,543	3.9
6月	2,699	0.6	2,029	2.0	4,729	0.5
7月	2,634	4.5	2,157	6.2	4,791	5.3
8月	2,627	1.0	2,373	2.5	4,999	0.6
9月	2,489	2.2	2,276	2.1	4,766	0.1

注:前年比 は減少。 出所:米国商務省(DOC)9月の輸入。

### 【8月の主要地域別輸入状況】

- ビッグ4からの輸入は9月に入って台湾が1月、2月以来となる前年同月比2.8増と増加を見たが、中国(前年同月比11.7%増)だけが好調といった大きな流れは変わらず、全体として同12.8%増となった。韓国同7.6%減、香港同38.9%減と両国の不振が続いており、特に香港の減少が著しい。
- アパレルが中心のアセアンからの輸入は、ベトナム(前年同月比26.8%増)の好調が続いているが、7月、8月と前年同月を上回っていたタイからが前年同月比11.2%減に転じたことにより、主要国からの輸入は、インドネシア8.8%減、フィリピン同24.2%減、カンボジア同2.2%減と、全て前年同月を下回っており、中国が牽引するビッグ4と同様に、ベトナムが牽引することとなった。アセアンからの輸入全体としては、同3.3%減となった。

### 米国の繊維品輸入推移(主要地域・国別)

単位：100万SME、%

	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年 (1-9)	前年 同期比
全世界	42,227	46,936	50,836	52,149	40,256	2.2
NAFTA	7,238	7,373	6,892	5,864	3,843	15.6
メキシコ	3,926	4,101	3,883	3,425	2,333	11.8
カナダ	3,312	3,272	3,009	2,439	1,510	20.9
CBI	4,046	4,168	4,169	3,796	2,773	2.2
ホンジュラス	1,165	1,209	1,262	1,144	904	4.9
エルサルバル	895	895	897	744	610	10.6
ドミニカ共和国	758	772	725	588	304	32.2
ビッグ4	12,633	16,128	20,595	22,537	18,777	12.8
中国	8,288	11,662	16,763	18,614	16,081	17.8
韓国	2,097	2,301	2,027	2,139	1,506	6.5
台湾	1,356	1,302	1,083	1,172	877	2.2
香港	892	862	721	613	313	35.7
アセアン	4,980	5,140	5,145	5,754	4,424	0.0
タイ	1,098	1,114	1,052	1,019	716	8.1
インドネシア	1,151	1,275	1,354	1,599	1,238	0.9
フィリピン	794	711	643	694	4343	19.5
ベトナム	827	905	950	1,148	1,101	23.8
カンボジア	561	673	740	870	664	1.3
EU(15カ国)	2,059	2,063	1,912	1,698	1,276	2.7
イタリア	533	462	385	325	254	3.8
ドイツ	484	479	453	383	251	16.6
その他主要国						
パキスタン	2,690	2,970	3,290	3,567	2,433	12.4
インド	1,666	1,915	2,334	2,654	2,091	3.5
バングラ	1,110	1,109	1,314	1,495	1,218	6.7
トルコ	1,026	982	844	725	497	10.1

注：前年比は減少。 出所：米国商務省(DOC)9月の輸入。

- NAFTA パートナーからの輸入は依然として低迷が続いている。アパレル中心のメキシコが前年同月比14.4%減、糸と織物主体のカナダは同25.1%の激減と、両国合わせて同18.9%の大幅な減少が続いている。
- CBI からの輸入は、ホンジュラス前年同月比2.1%増、サルバドル同横這いと堅調な推移となっているが、その他の国からの輸入が軒並み不振となり、全体で同11.5%減と5ヶ月連続の減少となった。
- EU(15カ国)からの輸入は、比較的好調に推移していたイタリアからの輸入が前年同月比17.6%減と大きく落ち込んだが、フランス同300%増、ドイツ同7.4%増がそれを補う形で、全体として同2.8%増となった。
- 上記の主要地域に含まれない「その他地域」からの輸入では、インドが前前年同月比0.5%減、不振の続くパキスタンが同10.4%減、バングラデシュ同8.7%減、トルコ同1.6%減と軒並み前年同月を下回った。

## 組合関係の会議と催事

(2007年10月)

9日(火)

**輸入**(東京)「 Bangladesh 繊維産業セミナー」が繊維会館会議室で開催され、アシュラフ・ウッド・ドゥーラ駐日 Bangladesh 大使の挨拶の後、 Bangladesh 衣類製造輸出協会の Director オサマ・タッシル氏並びに輸入組合神山主任研究員より説明があり、質疑応答が行われた。組合員40名が出席した。

**輸出**(大阪)「上海市対外経済貿易委員会」来訪。(BM第1会議室)

10日(水)

**輸入**(大阪)「 Bangladesh 繊維産業セミナー」が繊維輸出会館BM会議室で開催され、前日の東京と同様に説明と質疑応答が行われ、組合員36名が参加した。

**輸出**(大阪)トルコ・ルーマニア市場調査団第1回打合せ会。

11日(木)

**輸出**(大阪)繊維団体名刺交換会打合せ(綿業会館6F)

12日(金)

**輸入**(大阪)第12回関西地区OB会が開催され、11名が参加された。

15日(月)

**輸入**(名古屋)名古屋商工会議所会議室に於いて日新運輸(株)・河田取締役海外営業本部長を講師に迎えて、「日中物流セミナー」を開催、衣料品貿易の現状、衣料品物流を取り巻く環境の変化、日中間物流の戦略的ポイント、物流戦略を支える各種サービス、物流の将来像について講演があり、組合員9名が聴講された。

「第1回中部地区関税制度分科会」が開催され、神谷委員長並びに海野副委員長より 1.事後調査 2.中国船社に係る付帯費用 3.HDSチャージに係る関税評価 4.アセアン各国のEPA締結の現状 5.関税定率法等基本通達一部改正について説明の後、意見交換が行われ、組合員11名が出席された。

16日(火)

**輸入**(大阪)「第1回関西地区関税制度分科会」が開催され、神谷委員長並びに海野副委員長より 1.事後調査 2.中国船社に係る付帯費用 3.HDSチャージに係る関税評価 4.アセアン各国のEPA締結の現状 5.関税定率法等基本通達一部改正について説明の後、意見交換が行われ、組合員37名が出席された。

17日(水)

**輸入**(東京)「第2回通商対策委員会」が開催され、タイ政府・Director of Bureau of Trade Preference Development・Ms.Vilaivan Tapwongsri 並びに Ms.Natruja Chaikongla より日タイEPA原産地証明書の取得に関する説明があり、意見交換が行われた。

KFCホールに於いて「日タイ経済連携協定(JTEPA)原産地証明書取得セミナー」が開催され、タイ政府・Director of Bureau of Trade Preference Development・Ms.Vilaivan Tapwongsri 並びに Ms.Natruja Chaikongla より説明があり、組合員47名が参加された。

18日(木)

輸入(大阪)輸出繊維会館B M会議室に於いて「日タイ経済連携協定(JTEPA)原産地証明書取得セミナー」が開催され、タイ政府・Director of Bureau of Trade Preference Development・Ms.Vilaivan Tapwongsri 並びに Ms.Natruja Chaikongla より説明があり、組合員 51 名が参加された。

22日(月)

輸出(大阪)トルコ・ルーマニア市場調査団第2回打合せ会。

23日(火)

輸入(東京)中国財政部訪問の打合せ会議が行われた。

24日(水)

輸入(大阪)日中経済貿易センター主催「中国遼寧省政府李万才副省長との朝食会」がリーガロイヤルホテルで開催され、中国アジア製品委員会・藤田委員が出席された。

輸出(大阪)野村證券と「金融動向」について懇談。

24日(水)~26日(金)

輸入(台北)「2007TITAS展」が開催され、輸入組合関係委員会委員が主催者の台湾紡拓会よりの招待で視察し、会場で台湾側輸出業者との貿易マッチング会議に参加された。

26日(金)

輸入(北京)通商対策委員会・五十川委員長、神谷副委員長並びに事務局は中国財政部を訪問し、中国の増値税輸出還付率引下げに関して意見交換を行った。

(宮崎)「第1回繊維資材委員会」が開催され、1.委員長互選 2.今後の委員会運営について審議が行われた。

(大阪)中国アジア製品委員会「中国東北部調査団」の事前打合せが行われた。

28日(日)~11月3日

(中国東北部)中国アジア製品委員会「中国東北部調査団」が遼寧省、吉林省、黒竜江省の中国東北三省へ派遣された。

31日(水)

輸出(大阪)公認会計士との打ち合せ。

## 中国アジア製品委員会「中国東北部調査団」を派遣

輸入組合・中国アジア製品委員会は本年 10 月 28 日（日）～11 月 3 日（土）の間、中国の遼寧省、吉林省、黒竜江省の東北三省に調査団を派遣した。概要は以下のとおり。

1. 派遣期間：2007 年 10 月 28 日（日）～11 月 3 日（土）
2. 派遣先：中国東北三省（遼寧省・吉林省・黒竜江省）
3. 団員：10 名（団員名簿参照）
4. 目的：

我国の衣類を中心とした繊維製品輸入は中国からの一極集中の輸入構造となっている。また、中国での主要供給地域は上海市・浙江省・江蘇省などの華東地域を中心に、山東省、広東省などである。近年、これら地域での労働工賃や原燃料価格などの諸コストの上昇、並びに繊維工場での労働者の雇用難が問題となっている。また、一方で我国での製品納入価格は今のところ値上げの余地がない。

このため、近い将来、中国では中西部や東北部へ繊維製品の供給地域がシフトするものと思われるが、対日輸出で考えるとやはり地理的に中国東北部は見逃せない地域である。

これまで日本の繊維輸入業界では中国東北部については大連までの情報は入手可能であるが、大連以北の瀋陽を中心とした遼寧省全体、さらには吉林省、黒竜江省の情報があまり得られていない。以上より「中国東北部調査団」を派遣し、同地域が今後、対日輸出供給基地となり得るか調査を行った。

## 5. 結果：

報告書を作成中、近日中に組合HPに掲載予定。調査結果の概要は以下のとおり。

- ・遼寧省では大連地区以外に瀋陽地区や大連、瀋陽間、また営口地区、丹東地区等に縫製工場があり、同省では既に 20～30 社の対日輸出工場があるといわれる。輸出港の大連とそれら地域が高速道路で繋がっていて、将来的に対日衣類輸出の供給基地となる可能性が高い。また、瀋陽市は小売市場としても東北三省の中心都市として、今後ますます市場規模が拡大することは間違いないと思われる。
- ・吉林省はいまだ縫製産業は未発達であるが、訪問した吉林市の「吉林化繊集団有限公司」は中国で有数の化合繊維系（将来的には織物も）の供給工場である。既に同社は華東地区ばかりでなく中国各地の繊維工場へ原料を供給している。近く織物生産設備をも導入する計画で、今後、東北地区の衣類産業に原料と素材を供給する基地としての役割は大きくなると思われる。
- ・黒竜江省は大慶市、チチハル市、牡丹江市等に縫製工場があり、同省は対ロシア向け繊維品輸出の窓口として輸出量が急拡大している。また、ハルピン市での卸・小売市場での消費は活発で、将来的に市場として注目される。
- ・東北三省全体では華東地区と比べ人件費も割安で、労働者の確保が容易で、また、電力供給も問題ない。技術・管理面では南方から管理者や技術者を雇い入れるなど徐々に向上している。インフラ面でも大連とハルピン間の高速道路を大動脈として、その他、大連を中心として丹東や営口への沿岸地帯の交通も整備されている。特に瀋陽市は東北三省の中心都市として、今後、大連以上の発展が期待される。また、東北三省は一般的に対日感情も良く、日本語人材の裾野が広い。

団 員 名 簿

		氏 名	会 社 名	役 職 名
1	団 長	大塚 丈二	伊 藤 忠 商 事 (株)	繊維原料・テキスタイル部 部長
2	副団長	汪 奮毅	蝶 理 (株)	アパレル第1部 部長
3	団 員	山本 太一	興 和 (株)	テキスタイル部 部長
4	団 員	福原 弘次	丸 紅 (株)	機能アパレル部シャツ課 担当課長
5	団 員	北野 均	三 菱 商 事 (株)	関西支社アパレル部 部長
6	団 員	治田 兼一	N I 帝 人 商 事 (株)	大阪衣料2部 部長
7	団 員	永谷 孝広	野 村 貿 易 (株)	アパレル事業部 大阪アパレルB G 部長
8	団 員	花吉 勉	豊 田 通 商 (株)	繊維製品部 テキスタイルグループ 課長職
9	団 員	江花 徹	日 本 繊 維 輸 入 組 合	業務部 参事
10	団 員	池田 稔	日 中 経 済 貿 易 セ ン タ ー	上海事務所 所長

日 程 表

日次	月日	交通 機関名	都市名	現地 時刻	概 要
1	10 月 28 日 (日)	JL799	関西空港 大連	8:55 11:35	関西空港 発【所要時間：2時間40分】 大連 着【対日時差-1時間】
		専用バス	大連	12:00	大連出発～丹東へ移動(バス/3時間)
			丹東	16:00	東港市雅拓制衣有限公司 丹東泊
2	10 月 29 日 (月)	専用バス	丹東	8:30	ホテル出発
				9:00	丹東華洋紡織服装有限公司(中国国貿促丹東市支会案内) 丹東出発～瀋陽へ移動(バス/4時間)
				17:00	中国国際貿易促進協会遼寧省分会・張汝明会長訪問会見
			夜	中国国際貿易促進協会遼寧省分会主催 招宴 瀋陽泊	
			瀋陽	8:30	瀋陽国際紡織服装城開発有限公司(以下中国国貿促遼寧省分会・遼寧省服装協会案内)
3	10 月 30 日 (火)	専用バス	瀋陽	10:00	瀋陽五愛服装市場
				13:30	瀋陽豊雷服装服飾責任有限公司
				15:00	瀋陽黎明安娜服装有限公司
				夜	瀋陽国際紡織服装城開発有限公司主催 招宴 瀋陽泊
4	10 月 31 日 (水)	専用バス	瀋陽 吉林	午前	瀋陽出発～長春～吉林へ移動(バス/4時間)
				14:00 夜	吉林化纖集団有限責任有限公司(吉林市副秘書長・中国国貿促吉林分会案内) 吉林化纖集団有限責任有限公司主催 招宴 吉林出発～長春へ移動(バス/1時間) 長春泊
			長春		
5	11 月 1 日 (水)		ハルビン	10:15	長春発(鉄道/K129)【所要時間：2時間52分】
				13:07	ハルビン着
				15:00	ハルビン服装城(以下中国国貿促黒竜江省分会随行)
				17:00	太平洋百貨店 中国国貿促黒竜江省分会秘書長主催 招宴
6	11 月 2 日 (金)		ハルピン 大連	9:25	ハルピン 発【所要時間：1時間30分】
				10:55	大連 着
				14:30	大連保稅区貝思特國際貿易物流有限公司
				15:30	大連三興物流有限公司
				13:25 16:35	大連 発【所要時間：3時間10分】 関西空港 着
7	11 月 3 日 (土)	JL790	大連 関西空港	13:25	大連 発【所要時間：3時間10分】
				16:35	関西空港 着



## 繊維品の包括保険の「保険責任期間終了」と 「保険期間延長手続き」について

別表に掲げる保険申込書の「保険責任期間」が、平成19年12月末日に終了しますので延長を必要とするものがありましたら、必要書類を添付の上、組合に申請してください。保険責任期間が「6ヵ月」延長されます。

### 記

- \* 平成19年6月に新規提出された決済条件が、「前受け」のもの
- \* 平成19年12月に新規提出された決済条件が、「前受け」以外のもの

(注) 当初の保険責任期間は「前受け」6ヵ月、「前受け以外」12ヵ月となっております。

1. 提出期限：平成19年12月20日(木)
2. 提出書類： 貿易一般保険包括保険(繊維品)  
保険期間延長依頼書.....2通  
(用紙は事務局で準備しています。)  
延長を必要とする包括保険申込書のコピー.....1通
3. 提出先:総務部(☎06-6201-1832)

なお、延長手続きのFAXによる申込みも可能です。(FAX:06-6201-1814)  
保険期間終了の保険申込書番号は以下の通りです。

### 前受けに係る2007年6月度受付保険申込書番号

受付局 区分 記号	大 阪	東 京	名 古 屋
J T - 0 7	103039 ~ 103541 ----- 504198 ~ 504685	101183 ~ 101402	100076 ~ 100088



前受け以外に係る 2006 年 12 月度受付保険申込書番号

受付局 区分 記号	大 阪	東 京	名 古 屋
J T - 0 6	106865 ~ 107589	103208 ~ 103633	100273 ~ 100290
	512220 ~ 513338		

**「イラン」向け引き受け方針変更について**

このたび日本貿易保険から、“「イラン」(国コード： 133)の米国政府による Mellat 銀行に対する措置の結果、同行の発行する米ドル建て L/C の決済に支障が生じる蓋然性が高まっているため Mellat 銀行又は同行の支店、子会社が発行するドル建て L/C により決済される輸出契約等につきましては、日本貿易保険が内諾書を発行した場合を除き保険契約を締結しないこと。及び、本取扱にかかる基準を下記のとおり変更し、実施日より適用いたします。”旨連絡がありましたのでご通知します。

記

**新：** Saderat 銀行若しくは同行の支店若しくは子会社（イラン国外に所在するものを含む。）が発行した L/C、Sepah 銀行若しくは同行の支店若しくは子会社（イラン国外に所在するものを含む。）が発行した L/C、Melli 銀行若しくは同行の支店若しくは子会社（イラン国外に所在するものを含む。）が発行した円建て以外の L/C 又は、Mellat 銀行若しくは同行の支店若しくは子会社(イラン国外に所在するものを含む)が発行した USD 建て L/C により決済がされる輸出契約等。

**旧：** Saderat 銀行若しくは同行の支店若しくは子会社（イラン国外に所在するものを含む。）が発行した L/C、Sepah 銀行若しくは同行の支店若しくは子会社（イラン国外に所在するものを含む。）が発行した L/C 又は Melli 銀行若しくは同行の支店若しくは子会社（イラン国外に所在するものを含む。）が発行した円建て以外の L/C により決済がされる輸出契約等。

1. ILC 取得条件 : 有り (据置き)
2. 引受限度額 : 10 億円 (据置き)
3. ユーザンス : 6 月 (据置き)

上記に該当する取引については保険契約の申込みを要しない。仮に申込みがなされた場合においてもてん補する責めに任じない。

4. 国別倍率 : 6.0 倍 (据置き)

\* 国倍率(地域差料率)とは、非常危険てん補に係る保険料計算に適用される基本料率に対して掛けられる倍率です。

なお、ユーザンスが6ヶ月を超えるものは、ベルン・ユニオンのルールに基づき、従来どおり引受けられません。

5. 実施日 : 平成19年11月2日

## イラン向けバイヤーの引き受け制限

日本貿易保険より、イランを巡る諸事情に鑑み、下記バイヤーについては、『海外商社名簿について』第5条に基づき、SF格とし引受制限を行う旨、連絡ありましたのでお知らせします。

### 1. 対象バイヤー

- (1) GHORB NOOH ENGINEERS & CONSTRUCTORS (バイヤーコード: 133-101567)
- (2) SEPASAD ENG CO. (バイヤーコード: 133-101197)

### 2. 格付の効力発生日

2007年11月16日(金)

### 3. 包括申込に関して

包括保険: 申込義務に拘わらず、原則保険契約の締結は行わない。

個別保険: 原則保険契約の締結は行わない。

(お問い合わせ先)

格付制度に対するご照会: 審査部 与信管理グループ 鈴木 03-3512-7684

個別案件に対するご照会: 営業第一部 引受第二グループ 大井 03-3512-7668

## 「ベナン」向け他1カ国の保険引受方針変更について

このたび独立行政法人日本貿易保険（NEXI）から、OECD・CRE 会合の結果を踏まえ、“「ベナン」（国コード：519）向け他1カ国の国カテゴリー及び引受方針を変更し、実施日より適用する。”旨連絡がありましたのでご通知します。

### 1. 国倍率及び引受条件（条件付引受国）

国コード*	国名	国倍率	引受限度額	ILC取得条件
519	ベナン	6.0倍(旧8.0倍)	10億円(5億円)	ILC(据置)
524	ナイジェリア	6.0倍(旧8.0倍)	20億円(5億円)	ILC(据置)

\* 国倍率（地域差料率）とは、非常危険てん補に係る保険料計算に適用される基本料率に対して掛けられる倍率です。

なお、ユーザンスが6ヶ月を超えるものは、ベルン・ユニオンのルールに基づき、従来どおり引受けられません。

### 2. 実施日：平成19年11月5日

## お知らせ

- 2007年12月の輸入通関手続相談窓口開設日 -

2007年12月の輸入通関手続相談窓口は下記要領により開設します。  
申告手続、品目分類、関税評価、暫8手続等々通関業務諸問題について  
ご相談の向きはご連絡下さいますようお願い申し上げます。

### 記

1. 開催日 2007年12月5日(水)及び12月19日(水)
2. 場所 日本繊維輸入組合 東京本部
3. 時間 午後1時より午後5時まで
4. アドバイザー 片山 喬次  
(元東京税関関税評価部門特別価格審査官)
5. 連絡先

Tel 番号 03(3270)0791

Fax 番号 03(3243)1088

E Mail 0023@jtia.or.jp(片山)

なお、事前の面談申込みや相談窓口開設日以外のお問合わせ、  
ご質問につきましては、事務局がお取次ぎ致しますので、本件  
事務局担当：国信までご連絡下さい。

以上